

生涯学習の立川市民科

立川市教育委員会では、市立小・中学校の子どもたちが、未来の立川市を担うべく立川市の歴史や文化、伝統、産業、まちづくり等を学ぶ「立川市民科」に取り組んでいます。今年度はさらに、子どもから大人まで学ぶことができる生涯学習としての「立川市民科」の取り組みも開始します。

立川市には、様々な特色があります。国宝があり、伝統芸能の獅子舞もあります。歴史的には、民間空港として世界とつながっていた時代もあります。また、商業、工業はもちろん農業も盛んで、トマトやブルーベリー、ウドなどの野菜・果物、生産量都内一となる植木等が出荷されています。地理的に

はモノレール、鉄道などの交通の要衝でもあります。

これまでの立川市の歩みや、なぜ立川市でこの産業が盛んになったのか等、立川市のたくさんの引き出しを開けて、地域への理解を深めていただくことができると考え、生涯学習推進センターでは、大人も学べる生涯学習の「立川市民科」講座の開講準備を進めています。具体的な講座情報は広報等でお知らせします。楽しみにお待ちください。



平和人権講座「砂川空襲の記録」

立川の歴史も学びます



立川市産のブルーベリーでジャムを作りました

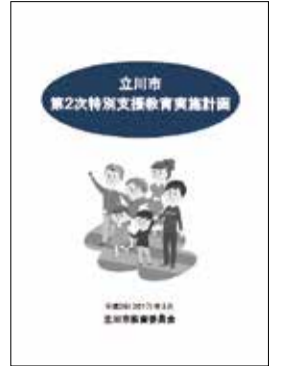
夏休み地域活性化講座「地元発見！ブルーベリー農園」

☎ 錦学習館 ☎ (527) 6743

立川市第2次特別支援教育実施計画を策定しました

立川市教育委員会は、平成29年度から31年度の3年間で計画期間とする『立川市第2次特別支援教育実施計画』を策定しました。28年度までの取組状況を踏まえ、5つの基本施策のもと、16の取組項目・39事業を中心に、特別支援教育の一層の推進を図ります。具体的には、同時期に策定した「立川市発達支援計画」や、都や国の動向とも整合を取りながら、年次計画に沿って進めていきます。

詳しい内容については市ホームページからダウンロードできるほか、市役所3階「市政情報コーナー」や各市立図書館などで計画書(冊子)の閲覧ができます。



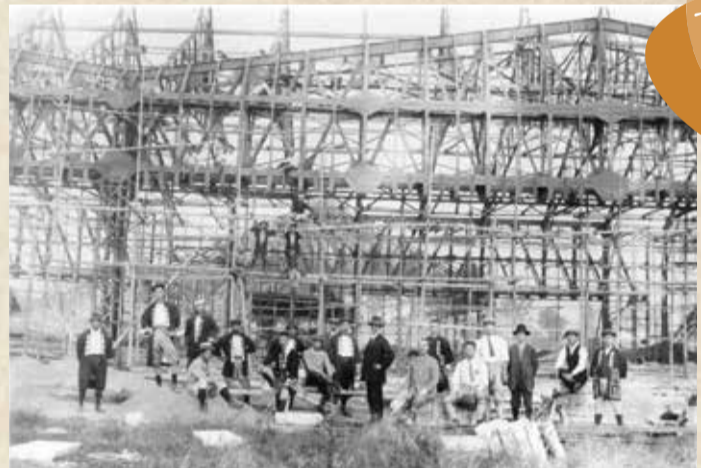
策定検討委員会の様子

☎ 教育支援課 ☎ (527) 6171

立川市の歴史と文化財

33

立川飛行場



飛行場建設風景(大正11年 背後に見えるのは格納庫)

第一次世界大戦(1914～1918)によって飛行機の重要性が認められるようになり、日本でも首都東京の近郊に飛行場を造ろうという動きが出てきました。埼玉県川越付近、東京府小川(現小平市)付近、神奈川県上溝(現相模原市)付近、東京府立川付近の候補地から、立川が選ばれ、中央線立川駅の北側に飛行場が造られたのです。選ばれた理由は、中央線が走っており、東京市内及び八王子からの通勤が容易なこと、人家が無く広くて比較的平坦な土地があったからでした。

大正10年(1921)秋に、立川に決定し用地買収が始まりました。地鎮祭は大正11年3月に行われ、直ちに工事が始まり、5ヶ月後の8月には飛行場はほぼ完成し、同年11月には、岐阜県各務原から陸軍飛行第五大隊(大正14年、陸軍飛行第五連隊に改称)が移ってきました。第五大隊は飛行場の東側に、大隊本部や格納庫等を設置しました。

大正12年には洲崎飛行場(現江東区)が関東

大震災により、壊滅的な被害を受けたため、民間飛行場機能も立川飛行場の西側に移ってきました。昭和4年(1929)には、立川―大阪間で、日本最初の定期航空が始められました。また、外国から有名な飛行家が来日し、「空都立川」の名は国際的にも有名になりました。民間飛行場機能は昭和8年に羽田空港(現大田区)に完全に移され、陸軍専用の飛行場となりました。

時間的には前後しますが、昭和3年には所沢から陸軍航空本部技術部が立川に移ってきました。昭和9年には、所沢から陸軍補給部所沢支部が移転して、立川支部となり、昭和10年には立川航空支隊に改編されました。昭和13年には飛行第五連隊は飛行第五戦隊と改称され、翌年には千葉県柏に移転し、その跡地に航空技術学校が入りました。昭和15年には、愛知県名古屋市にあった熱田製作所などが移転して、陸軍航空工廠となりました。

立川に集まってきたのは軍の施設だけではありません。昭和5年に立川飛行場の東側に移転してきた石川島飛行機製作所(後の立川飛行機)をはじめとして、多くの民間飛行機関連会社が飛行場の周辺に造られていき、「空都立川」から「軍都立川」へと変容していったのです。

第二次世界大戦末期には、「軍都立川」ゆえに飛行場周辺は10回以上の空襲を受け、多くの方が犠牲となったのです。

戦後はアメリカ軍の立川基地になりましたが、昭和52年(1977)に、立川基地が全面返還されました。返還された土地は、国営昭和記念公園、広域防災基地、市街地等として利用されています。今年には返還から40年目に当たります。今は多くの市民の憩いの場であるとともに年間約450万人の来園者数を誇る国営昭和記念公園は、かつては軍事基地だったのです。